

研究所だより

第391号
2018年 9月 7日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“夕焼け 小焼けで 日が暮れて 山のお寺の 鐘が鳴る
おてつないで みなかえろう からすといっしょに かえりましょ”

『夕焼け小焼け』 日本の童謡・唱歌（1923）



～実りの秋！～

猛暑が続き、記録的な高温となった埼玉県熊谷市では国内観測史上最高の41.1℃を記録しました。また、台風や前線の影響で記録的な大雨となる日が多かった今年の夏。西日本豪雨、反時計回りに移動した台風12号、立て続けに襲来した台風19、20号、その20号と同じようなコースで日本列島を縦断した今季最大級の台風21号、そして6日未明北海道で発生した地震、結果各地に甚大な被害をもたらしました。これからも台風の襲来が予想されますので各校におきましては、「自助・共助・公助」「自分の身は自分が守る」を合い言葉に災害に備えての準備・訓練を徹底していきましょう。



2学期が始まり、児童生徒の元気な顔、声が学校に戻ってきたことでしょうか。子どもたちは、長期休業でなければできない貴重な体験をしてきたと思います。また、先生方も研修や研究をされてきたことと思います。運動会・体育祭をはじめ諸行事に多忙な2学期、地域の人達と学校の関わりを深める機会の多い時期でもあります。益々多忙感は増大するでしょうが、蓄積されたエネルギーをフルに生かし、実りの多い秋であって欲しいと思います。

＝夏休み明けの学級づくり＝

40日余りの家庭主体の生活から学校生活へ戻ってきた子どもたちにとっては、学校や学級で夏休み前にできていたことができなくなったり、築き上げたことが崩れたりしていることがあります。再確認しながら様々な取り組みを始めましょう。

【ルール・マナーの再確認】

みんなで気持ちよく集団生活を送るためのルールやマナーの意識が薄れ、夏休み前に身につけていたものも忘れていくことが多いでしょう。そこでまず取り組みたいのは、人と関わるときや集団で生活するときのルールやマナーの再確認です。学級の実態に応じて、みんなが楽しく快適に学級で生活したり、活動できるように、マナーやルールを数個決め、全員で守れるようにしましょう。

ルールやマナーを確立するために担任から強制的に守らせることは、子どもたちの反発を防ぐために避けた方がよいでしょう。ルールやマナーは、人と関わったり、集団生活で楽しく活動したりするために、人間が編み出した生活の知恵であることを十分理解させた上で、子どもたち自身で決めさせ、取り組むようにしたらどうでしょうか。

また、各係活動や委員会活動等の中で、学級での存在感を植えつけ、互いに認め合う雰囲気づくりをすることで、集団を高め合うことができます。特に行事が多い2学期は学級集団を高める絶好の機会です。行事で集団を高める。行事が集団を高める。学級担任の腕の見せ所です。



<第68次土佐清水市教育研究集会・一日教研（振り返り）>

8月8日（水）に開催しました一日教研について報告します。午前中は、井上貴美先生（特別支援教育巡回アドバイザー）による『これからの特別支援教育の在り方について』と題しての講演をお聞きしました。ストレートでとても分かりやすく、困り感のある子どもの傾向や支援方法をたくさん教えていただいたように思います。午後の部会研修では、講師を招聘しての講話や教材研究、実習やフィールドワークを取り入れるなど部会独自の研修計画を練り、有意義な教研活動になったことと思います。先生方から寄せられた感想には、自分自身の取組の振り返りやこれからの学級経営や個人支援に向けての方向性など多く記述されていました。

下記に講演の感想を紹介します。

☆井上先生の講演を聞きながら、身近にいる子どもたちのことを考えながら、今後のことをどうすべきか…etc. 思いうかべていました。音声教材（BEAM）やカラーマスノート等あることも知り、活用できたらいいなと思いました。資料4では、具体例も出され分かりやすいです。これからもユニバーサルデザインの視点に立った学級経営をしていきたいと思っています。ありがとうございました。

☆自分が ADHD であることが分かりました。特別支援についてより詳しく講演していただき、勉強になりました。言語聴覚士についてもその存在や役割がわかり、活用できるときは相談してみようと思います。

☆自閉症の特徴についてまとめられた資料があり、エピソード分析がされていたので、これまでに受け持っていた生徒の特徴を思い出して、彼らの困り感や困難を感じることができた。周りの人から見ると困惑してしまう突飛な行動も、子どもにしてみれば十分な理由があって、好きでしている行動であることに共感をもって対応していかなければいけないと思った。

☆インクルーシブ教育や自閉症の理解について講演していただきありがとうございました。困り感のある子どもの指導、支援について研修を深めることができました。2学期からの支援に活かしていきたいです。

☆今日はご講演ありがとうございました。大人も子どもも支援がいる人がたくさんいるのだということを知りました。普段、自分が意識して気をつけていることは、自分が努力してなかったら、ひょっと支援に関わる内容に入るのだろうか…ふと思いました。たくさんの方を学習させていただきました。また、機会がありましたら、内容をしばって詳しくお話を聞きたいと思いました。ありがとうございました。

☆STの方のことを知ることができて良かったです。今一番困っていることが、いかにコミュニケーションや友だちの関わり方のスキルを向上させるにはどうすればいいのだろうか悩んでいました。自分だけ、学校だけでなく、そんな専門の方がいて支援して下さることを知って良かったです。ソーシャルスキルの向上、方法の向上レベルを上げていきたいです。

☆子どもの背景をしっかりと見て、特別支援の視点を大切にしていきたいと感じました。また、支援を必要とする子どものためにも、チェックリストを活用し、その子に一番合った手立てを考え、実行することが大切だと思いました。専門機関へのつなぎ方等、具体的に考えないといけない場面もあることも大変勉強になりました。本日はありがとうございました。

～井上貴美 先生の講演～



「事務部会」

「図工部会」

「教育相談部会」

「養護部会」



「体育部会」

「家庭科部会」

「外国語部会」



～あすなろネットワークの取組～

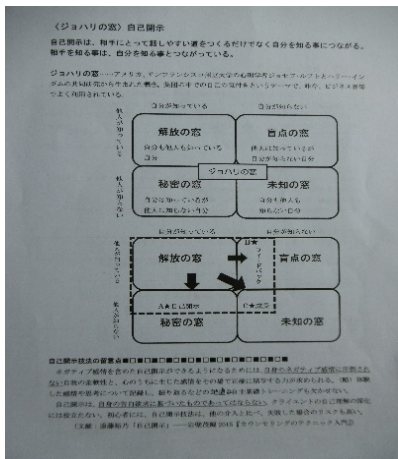
8月27日(月)第3回あすなろネットワークを開催しました。講師に森 真弓さん(臨床心理士、高知県スクールカウンセラー)をお招きし、「自己開示とピアカウンセリング」と題して講話とグループワークを行いました。

はじめに、自己開示とピアカウンセリングについての説明がありました。守秘義務があることの確認も同時に行われました。(別紙：ジョハリの窓)

次にアイスブレイクを行いました。最初のアイスブレイクでは、長子、末っ子、中の子、一人っ子の4グループに分かれました。「長子は我慢することが多いよね」などといった会話をし、少し緊張がほぐれてきました。(ジョハリの窓)

次のアイスブレイクでは、自分が行ってみたい国を声に出し、近い国の人とグループになりました。韓国、スイス、オランダ、フィンランドなど、様々な国の名前があがりました。行ってみたい理由として、美しい山並みを見たい、ムーミンが好きだから、オーロラを見たい、サンタクロースに会いたいなど、同じ国でも、それぞれに違った理由があり、お互いに共感しながら聞き合うことができました。

ピアカウンセリングのワークでは、自分の悩みをニックネームでいくつか書きました。講師と教育センター職員で似た悩み同士のペアに振り分け、そのペアで10分ずつ話を聞き合う演習を行いました。初めて会話をするペアもあり、初めは少し表情が硬かったのですが、同じような悩みということもあってか、次第に笑顔が多くなりました。「私も同じ」とお互いの悩みに共感し、うなずきながら聞き合うことで、一人ではないという安心感が生まれたようでした。悩みを聞き合うことからのスタートでしたが、会話が弾み、笑い声も聞かれるようになりました。



森先生は、ピアカウンセリングは、答えを導き出すものではないということをおっしゃっていました。こうしなければいけない、何かアドバイスをしてあげないといけないのではなく、自分のことを話す、うなずいて聞くだけでピアカウンセリングだという説明があったので、話しやすい環境にあったのかもしれません。私たち教師は、子どもが話しやすい環境をつくってやること、うなずきながら聞くことが大切だと、演習を通して感じました。自分たちが感じたように、聞いてもらうだけで認めてもらっているという安心感が子どもにも生まれてくるのだと思います。下記に感想を紹介します。

☆今回も穏やかな雰囲気で行われたのがうれしいですね。自己開示がスムーズにできるそんな職場でありたいですね。

☆ジョハリの窓の話を聞いて、自分を隠すことを減らして、自己開示することを意識していきたいと思いました。職場でも、“ピュアサポート”をさりげない感じで雑談の中でできたらいいなと思いました。

☆似たタイプの方と話をすることができ、悩みを共感・共有できたように感じた。その方の経験や聞いた話などから、楽に考えられるようにしようと思えた。

☆自分のことをあまり深く知らない人だからこそ話しやすかったと思う。同じように思っていることもあったり、自分だけじゃないと思えることがあって少し安心した。共感してもらえるとホッとします。経験のある方の話を聞くことができ受け止めてもらえたのでよかった。うなずいて聞いてくださり話しやすかった。

☆自分の悩みを打ち明けることに不安や恐怖感があったのですが、自分以外の人の考えや意見を聞けると、ほんの少しまたそれ以上に自分にはないものを取り入れることができ気持ちが楽になりました。相談を受ける側の時も何か答えやヒントになることを言わないといけないと思わなくてよい分リラックスしてできました。



「森 真弓さんの講話」



「アイスブレイク」



「ピアカウンセリング」



☆書籍の紹介☆ ～ご利用をお待ちしています～

- 保育士・教師のためのティーチャーズ・トレーニング
(発達障害のある子への効果的な対応を学ぶ・しからずに、子どもと向き合えるプログラム)
- 特別支援教育の基礎・基本(新訂版)
共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築
- リーダーズ・ライブラリⅡ
Vol. 4 「スクールリーダーのあり方・生き方」
Vol. 5 「若手が育つ学校～学校の人材開発～」

